

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 寿宝会 グループホーム輝楽苑
（ユニット名）	B
所在地 （県・市町村名）	愛知県豊川市御津町御馬浜田148
記入者名 （管理者）	志賀 ちかの
記入日	平成 20年 1月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる仲間。旅立ちの日まで真心込めて 今日一日に想いを込めて」を理念とし、地域とのつながりや、人と人とのつながりを大切にし、心が通った生活が送れるように支援している。	○ 今後も地域に積極的に出向き、この地区の住民として生活して行けるよう取り組みたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関の見やすい位置に掲示している。常に意識するようミーティング時にも話し合っている。	○ 全職員が理解し、具体的なケアについて意見交換し統一を図っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の行事への参加や施設での生活の様子、行事などご家族や地域の方へお知らせし、理解していただけるよう取り組んでいる。	○ 今後も地域の方やご家族の方に理解していただけるよう取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのコンビニや八百屋へ買い物に出かけるようにし、関係を深めている。また、保育園にも出かけ交流を深めている。ゴミ捨てに行った際は挨拶を交わしたりしている。一日に何度か外に出られる利用者に対し、声をかけていただいている。	○ 円滑な関係が続くよう、日頃からコミュニケーションを図りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動やお祭り、敬老会に参加している。保育園の園児に施設に遊びに来て頂いたり交流を深めている。	○ 運営推進会議を通じ、積極的に地域との関わりを持てるよう助言していただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	随時、地域の方から認知症介護の相談は受け入れている。	○	地域の方と積極的に関わり、地域に貢献できるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、質の向上に努めている。外部評価の結果を踏まえ、改善点は全職員話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	○	前回の評価結果に対し向上心を持って取り組んでいる。今後も向上できるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催し、施設の活動状況、取り組み内容など報告し、意見交換を行っている。また、防災に対しても意見を頂いている。	○	外部評価の取り組みと結果を報告し、意見交換等行い今後の取り組みに反映していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困った事や、分からない事は市町村へ問い合わせたり、出向いたりしている。また、定期的に行われる連絡協議会に出席し、情報を得ている。	○	今後も継続し市町村と共にサービスの質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度について必要なケースではホーム長が対応している。	○	職員に対しても理解を深める為、勉強会や研修会に参加し知識を身につけたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のミーティング等でも意見交換をしたり、虐待が行われないよう職員間で注意し、見過ごされないよう努めている。	○	勉強会などで高齢者虐待防止法に関する理解を更に深め、何が虐待に繋がるか学習する機会を定期的に作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分時間をかけ説明、納得していただいたうえで契約を行っている。また、ケアに関する考え方や取り組み、施設として出来る事、出来ない事等説明させていただいている。解約に関しても利用者の状態に応じその都度説明し、納得していただいたうえで解約を行っている。	○	今後も契約時には充分説明し、納得のいく契約を行いたい。解約に至る間にも誤解を生じたりしないよう心がけたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の態度や言動から利用者の不満、不安事がないか見極め、対応にあたっている。不満を聞いた場合は、改善方法を職員で話し合い改善に向け取り組んでいる。苦情内容によっては、上司も含め対応を検討している。	○	利用者やご家族等から苦情や不満等が持ち上がった場合、速やかに対応して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月手紙にて状況を報告したり、写真を同封するなど日々の暮らしぶりを報告している。また、必要に応じ電話連絡をしている。面会時には個々に話す機会を持つよう心がけている。	○	今後も継続し、ご家族とのコミュニケーションを大切にしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には個々に話をするよう心がけており、ご家族からの意見を聞くようにしている。注意を受けた時には改善に向け迅速に対応している。玄関前には意見箱を設置してある。	○	今後もご家族との信頼関係を深め、意見が言いやすい雰囲気を作って行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時など意見交換を行い、より良い施設を目指し取り組んでいる。ホーム長も随時職員に意見を求めるなどし、意見が言いやすい雰囲気を作るようにしている。	○	今後も意見や提案が言いやすい雰囲気を作り、業務の改善に取り組んで行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者が安心した生活が送れるよう、勤務の調整に努めている。	○	今後も利用者の状況に合わせ、職員と話し合いながら調整するようにしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員は各ユニット固定し、部屋担当もある程度固定し信頼関係を築いている。各ユニット固定ではあるが、終日フロア間を行きでき、顔馴染みの関係は出来ている。異動も最小限に抑えられている。	○	今後も利用者の負担のない配置を心がけ、異動も必要最小限に抑えられる努力をして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は個々の段階に応じ全職員が参加できるようにしている。法人内外の研修に参加し、参加した職員は、施設に戻ってから研修の内容を他の職員にも伝える機会を設けている。また、研修後にレポートも提出している。	○	今後もパートを含め、向上心をもって研修に参加していきたい。研修で学んだ事を活かせるよう取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研修などに参加し、他施設の方との交流や、意見交換を行っている。また、市の連絡会でも情報を交換している。	○	今後も同業者との交流を深め、情報交換や相談等行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々コミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っている。また、顔つきや態度等から職員の心理状態を探り、その都度声かけをするようにしている。	○	今後も職員の心身の状態を気遣う配慮を続けたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一年の目標を設定し、半年に一度自己評価で客観的に自身を捉え何が足りないか理解し、向上に繋がるよう努力している。また、上司との面接もあり、助言も頂いている。	○	資格取得に対し支援したり、職員が意欲を持って働けるよう努力したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時にご本人と会い、生活の状態や心身の状態、本人の求めている事を把握するようにしている。	○	今後も本人のニーズを的確に捉え、安心した生活が送れるよう支援していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時にご家族から困っている事や不安な事など、ゆっくり話を聞く機会を設けている。また、面接時には要望や希望等聞くようにしている。	○	今後もご家族が話しやすい環境を作り、信頼関係を少しずつ築いて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人のニーズを把握し、必要に応じ入居以外のサービスについても説明している。	○	必要としているものを見極め、他の事業所との連携も大切にしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て頂くことでどんな所か知っていただき、入居時には温かく迎え入れるようにしている。職員間でしっかり話し合い、支援方法などをご家族に伝えサービスを開始している。	○	必要に応じショートステイから開始し、徐々に馴染んで頂ける環境を整えたい。また、待機の方に対して可能な限り自宅を訪問したり、施設へ訪問して頂く等馴染みの関係作りをしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で冗談を言い合いながら喜怒哀楽を自由に表現しながら生活している。また、日々の生活の中で、調理、裁縫、畑仕事などそれぞれの得意分野のことを教えていただきながら生活している。	○	今後も利用者、職員と力を合わせ助け合いながら生活が送れるよう環境作りに努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	以前の暮らしぶりや、どんな事に興味を持っておられたか等ご家族から情報を得てより良いサービスが提供できるように協力関係を築いていくよう努めている。	○	ご家族と連携を密にし、共に支えあえる関係を深めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が疎遠となってしまっている方も見え、手紙などで面会に来て頂けるよう声かけしている。	○	ご本人とご家族の関係が途切れず、より良い関係が築けるよう支援したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望時、馴染みの場所へ行ったり、行きたい所や会いたい人がいるのであれば職員が可能な限り協力している。	○	今後も可能な限り対応し、馴染みを大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時など利用者が集まる時にはどのような配置が望ましいか考え、利用者の意見も聞き入れるようにしている。仲の良い利用者、気の合わない利用者をしっかり把握し、孤立しないよう職員が間に入ったりしている。	○	職員が間に入り、利用者同士のかかわりを大切に出来るよう支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ転居された方が気軽に訪問できる環境を作っている。実際に訪問もあり、昼食を共にし、近況報告をされたりし関係が続いている。	○	今後も継続したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向に沿えるよう努めている。また、本人の希望をケアプランに盛り込みケアにあたっている。常に利用者にとってを考えるようにしている。	○	今後も利用者の視点に立った支援が行えるよう、毎日の何気ない仕草や行動から思いを汲み取って行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や、入居前にご本人やご家族から情報を得ている。また面会時にも昔の話を聞くなどして、把握するように努めている。	○	今後も継続したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の生活リズムを大切にし、出来る事を奪わないケアを心がけている。利用者の状態を観察記録し、皆が把握できるようにしている。	○	今後も出来る事を奪ったり、職員中心の生活にならないよう注意したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を聞いたあと、日々の細かな観察、現状を職員で話し合い介護計画を作成している。Drやリハビリ関係者からも意見を聞いている。	○	今後もその人らしい生活が維持できるような介護計画を作成するよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い現状の把握や、ケアの見直しを行っている。状態変化に応じケアプランを見直している。	○	今後も現状とケアプランとの違いがないよう、実情に応じたケアに繋がるように見直して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日記録し、何かあれば記録の他に話し合ったり、連絡帳に書く等し、情報を共有している。連絡帳は、出勤時必ず目を通すようにしている。	○	利用者の全体像が分かるような記録となるよう心がけていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態やご家族の希望に応じ往診や協力医以外の受診等行っている。重度化した場合は、ご家族の希望や施設としてできる事、できない事を伝え、Drを交え話し合いをし可能な限り現状の生活が送れるよう取り組んでいる。	○	今後もご家族や他職種と連携し、希望に沿うよう取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練時は消防署と連絡を取り行っている。近くの消防署や地区の公民館には部屋ごとに住んで見える方のADL状態の情報を伝え、災害時の救済にすぐ対応できるような情報を提供している。民生委員の方には運営推進会議において意見を頂いている。	○	地域のボランティアの出入りが少ないため、協力を得られるよう関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、事業所以外のサービスとつなげるように情報交換を行い連携を図っていきたい。	○	今後もご本人、ご家族の希望に応じ、訪問理容を利用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方、民生委員の方に参加していただく事で関係が強化された。地域で認知症の方を支えられるような協力関係を築いていきたい。	○	今後も意見交換を行い、一層関係が深くなるよう努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば協力医以外の受診を行っている。ご家族だけで受診するのではなく、職員も付き添い、日頃の状態を説明させていただいている。受診困難な利用者に対しては、2週間に1度の往診にて対応している。夜間急変時にも連絡が取れる体制が整っている。	○	今後もご家族、ご本人の希望に沿った受診を行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の方に対する対応が熱心で、利用者の話や職員の話をしっかり受け止め適切な指示や助言をいただけている。	○	必要性がある時には紹介状を書いていただき、受診につなげている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護師や、協力医の看護師に相談助言していただいている。	○	今後も継続し、助言していただく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には面会に行き、病院関係者やご家族から情報を得たりしている。また、退院に向け看護師、医師と話し合ったり、必要な処置内容等指導を受けたりしている。職員間でも現状を報告し情報を共有し、退院後の対応について話し合っている。	○	今後も入院中の状態を把握し、医師やご家族と話し合いながら退院に向け取り組んでいきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者、ご家族に意思確認している。また、終末期を迎えた時点で再度確認し、ご本人、ご家族、協力医と話し合い方針を共有している。	○	協力医と連携し、ご本人やご家族に不安を抱かせない対応をしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の意向踏まえ、施設でできることできないことを明確にし、医療面では、協力医からご家族へ予測される変化について説明され、安心して納得した最期を迎えられるように支援している。	○	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い、安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所への移り住む場合には、関係者と情報交換し、ダメージが少しでも減らせるよう努めている。	○	移り住んでも、これまでの生活が継続されるよう、支援の内容や注意事項等利用者に必要な情報を細かく提供していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で利用者の誇りや、プライバシーを損ねない対応を心がけている。また、言葉遣いチェック表で定期的にチェックしている。掲示物や、ホームの便り等はご家族の同意を得るなど個人情報の保護に努めている。	○ 今後も心配りをし、不快な思いをさせない対応を心がけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で利用者とのコミュニケーションを多くとることで、現状の思いややりたい事を聴きだし、自分でも決める事ができるよう支援している。	○ 選択できる声かけや、どうしたら選択できるか考え取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々のペースに合わせ過ぎていただけるよう支援している。利用者の希望になるべく沿えるよう心がけている。	○ 一人ひとりの意思を尊重し、柔軟な対応を心がけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院を利用していただけるよう予約を取ったり、送迎したりしている。ご本人の思うような髪形にしてみえる。また、行きつけの美容院がない方には、希望により、床屋の来苑時カットしていただいている。	○ 本人の意向や好み、持っている力に応じた支援を心がけたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、味付け、盛り付け等それぞれ出来る事を見極め、職員と共に行っている。食事と一緒にテーブルを囲み、介助の必要な方も共に食事を楽めるよう努めている。片付けも利用者が中心で行っているため、職員は邪魔しないように見守っている。	○ 誕生日にはその方の好きな食べ物を職員が作りお祝いするなど楽しみを作ったり、外食で、調理も片付けもしなくて良い日を作ったりし、いつもと違う雰囲気も楽めるようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽めるよう支援している	利用者の嗜好品を理解しており、一緒に買いに行ったりしている。お酒を購入し、冷蔵庫に入れ、他利用者と共に晩酌したり、行事でもお酒を用意し、希望される方には提供している。ただし、健康上飲酒量は制限する事もある。	○ 今後も希望時はご本人の嗜好に合わせ提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の利用者にあわせ対応している。利用者の出来ない部分を把握し、不十分な所のみ介助させていただいている。トイレの中で介助が必要な場合も、排泄中は退室するよう心がけている。	○	今後も個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりの支援を心がけたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう、お風呂は沸かしているが、本人の意思を尊重し、無理強いはいしないものの、清潔感を保つ為、時には職員の都合で入浴していただく事もある。排泄後に入浴される習慣の方に対しても、真夜中でも可能な限り対応させていただいている。	○	今後も、それぞれの生活習慣に対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、体調や、本人の希望を考慮しゆっくり休めるよう支援している。	○	今後も一人ひとりの生活リズムを大切にしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般における経験や、知恵を教えられるような雰囲気を作り、教える事に張り合いや喜びを感じていただけるよう支援している。	○	一人ひとりが、得意分野で持っている力が発揮できるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望等に応じ、お金の管理をしていただいている。また、買い物に行った時には自分で払っていただくようにしている。レシートはケース記録に張ったりし、使用した金額を把握するようにしている。	○	お金に触れる機会が少ない方もいるため、お金に触れる機会を作っていききたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に散歩がてらおやつを買いに行ったり、ドライブに出かけたりしている。	○	日常的に外出ができていない状態であるため、少しの時間でも外に出て、五感刺激の機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅や墓参り等、希望時は出かけている。また、「野球が見に行きたい」と希望されている方もおり、実現に向け取り組んでいる。	○	全員の要望が支援できているわけではないため、ご家族の協力も得て希望する所へ行ける環境を作っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の手紙、写真等ご家族に送っている。その他一部の入居者ではあるが、ご自分で手紙を出しに行ったり、ご家族へ電話をかけれるよう支援している。その際は職員は席を外すようにし、気兼ねなく話ができるように対応している。	○	電話では聞かれたくない内容もあるため、プライバシーに配慮した対応を今後もしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	周囲に気を遣わず過ごしていただけるよう、居室に案内させていただきお茶を出したりしている。いつでも訪ねていただけるよう、笑顔で対応するよう心がけている。	○	今後もいつでも気軽に来て頂けるよう居心地の良い空間を提供していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合い、全職員が身体拘束を行わないようケアを考え取り組んでいる。言葉による拘束も行わないよう心がけている。	○	今後も職員同士注意しあいながら、身体拘束をしないケアを心がけたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は21時まで行っていない。安全面に配慮しつつ、利用者の方には出入り自由にしていただいている。	○	今後も鍵をかけず、利用者がなぜ外に行きたいのかを考え、その方の思いを理解するよう心がけたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は記録を書く時もフロア全体が把握できる所で行うようにしている。夜間は巡視以外にも利用者の状態によって巡視を多くするようにし、安全確認している。	○	昼夜問わず利用者の安全確保に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室には、利用者の状態に応じハサミや針など持ち込んでいる。包丁や洗剤等は職員が管理しているが、あまり神経質になり過ぎないようにしている。	○	職員一人ひとりが危険を予測し、利用者に合った対応方法を考えて支援していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態から危険を予測し、事故を未然に防ぐ努力をしている。万が一、事故が発生した場合は、事故対策会議を行い、再発防止について検討している。	○	今後も一人ひとりの危険を予測し、事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を行い、全職員が適切な対応が出来るよう学んでいる。また、個別に分からない事は聞いている。夜間、緊急時の対応や、連絡方法も分かりやすく見える場所に張っている。	○	今後も全職員が緊急時に慌てず処置が行えるよう勉強していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行っているが、地域の方との連携は取れていないのが現状である。現在、運営推進会議にてどのように取り組んでいくか話し合っている。防災マニュアルは作成している。	○	今後、地域の方と連携が取れるよう話し合っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人らしく暮らす中で、様々なリスクがあることをご家族へ説明させていただき、支援方法についても説明させていただいている。	○	今後も状態の変化に合わせてご家族と話し合い、安心して暮らせる方法を考えていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い異常があれば上司に報告し、対応している。また、職員全員が把握できるよう記録し、情報を共有している。	○	今後も身体観察をしっかり行い、異常の早期発見に努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録を見れば個々に服用している薬が分かるようにしており、薬の内容もわかるようになっている。注意して欲しい事があれば連絡帳に記入する事で情報を共有している。	○	薬の変更時は申し送りで伝えと共に、連絡帳へ記入し間違いのないように徹底していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多く、おやつにヨーグルトやフルーツ、寒天系のものを提供し、自然な排便ができるように取り組んでいる。	○	体操や散歩等、日常的に体を動かす事が少なくなっているため体を動かす機会を増やし、自然に排便が出るよう努めたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、介助の必要な方には職員が行っている。また、必要に応じ歯科の往診で口腔内をチェックしていただいている。	○	今後も口腔ケアをしっかり行い、誤嚥性肺炎の予防に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分量など毎日チェックシートに記入し、職員が情報を共有できるようにしている。また、週1回体重測定を行い、個々の状態を把握するようにしている。体重増加や減少等気になることは管理栄養士に相談し、アドバイスを得ている。	○	食事形態も利用者の状態に応じ臨機応変に対応して行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、全職員予防に努めている。嘔吐、下痢等は手袋を使用したり、床をハイターでふく等取り決めがある。調理前には必ず消毒するよう徹底している。	○	毎日床はハイターにて拭き掃除を行っている。今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際は手洗い、消毒を徹底している。調理用具(まな板、布巾)は毎晩キッチンハイターで消毒している。冷蔵庫も週1回点検している。調理済みの食材は余っても毎回処分している。	○	今後も衛生管理を徹底し、安全に食事をしていただけるよう努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に手作りの木のベンチを置いたり、入居者の方の写真や入居者の方の書いた書を張ってある。スリッパも合皮の物は使わず、家庭的なものを使うようにしている。	○	今後も訪ねやすい雰囲気をつくっていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手作りの物を飾り、幼稚な物にならないようにしている。季節ごとの行事で季節感を味わったり、ご飯の炊けるにおいや調理する音等で、生活感を取り入れるようにしている。	○	今後も五感刺激を大切にしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	体力的に低下されている方でも、一人で居室で過ごす事が寂しいと言われた場合は畳に布団を敷き、他利用者との関わりを大切に過ごせるよう支援している。また、ソファの位置等も、日向ぼっこができるよう設置している。	○	一人ひとり思い思いに過ごせるように場所の確保をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで使用していた物をそのまま持って来て頂くよう入居時に伝えている。ご自分の馴染みの物ということで、居心地の良い空間での生活をと考え取り組んでいる。	○	今後も更に自分らしい生活空間が演出できるよう働きかけていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者に確認しながら室温調整をしている。24時間換気ファンを回し、居室には消臭剤を置く等で気になる臭いに気をつけている。	○	今後もきめ細かい対応をしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理台は若干高さが利用者にあっていないため、調理時は食卓テーブルにて作業を行っている。建物内部は極力段差がないようにしており、廊下には手すりが設置し安全に配慮すると共に、自立への配慮がされている。	○	今後も安全に配慮し、自立した生活が営めるよう支援したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ、浴室などの場所に張り紙をしたり、写真を張るなどしている。混乱がある場合は手招きするなどして誘導している。	○	混乱しないよう、個々に合わせた声かけや対応を今後も続けていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に畑を作り、一緒に野菜や植物を育てている。中庭では、バーベキューを行ったりしている。また、中庭にはベンチが造りつけてあり、おやつを食べたり、夏には夕涼みをするなど活用している。	○	天気の良い日はもっと活用し、外気に触れる機会を多くしていきたい。

V.サー			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりのできている事がなくなる様、手を出しすぎず利用者自身を尊重した支援を心がけている。また、行事等で楽しみが持てるよう心がけている。
職員は、業務中心とならないようゆとりある生活空間を意識し、日々生活している。